

生活環境学部 生活文化学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

生活文化学科は、女性リーダーに必要な教養を身につけ、広い視野と専門的スキルの両者を兼ね備えた人材を育成します。人間生活を支える多様な価値観を理解して、うまくコミュニケーションするスキルを学び、様々な社会生活課題に専門的知識で取り組み、社会に貢献できる人材を育成します。

【身につけるべき資質・能力】

- ・教養教育科目および専門教育科目を通じて、社会における様々な事象に対し、人文・社会科学の分野横断的な視点から物事を捉える能力を身につけている
- ・高いレベルの専門的知識およびそれらを体系化する論理性、客観性を身につけている
- ・主体的学習者として、問題を発見し、その解決に向けた取り組みを卒論としてまとめる能力を身につけている
- ・習得した知識、論理性、分野横断的なアプローチなどの能力を社会の中で役立てる際に必要となるプレゼンテーション能力を身につけている

【学位授与の要件】

所定の在学期間在学し、授業科目の履修を通じて上記の資質・能力を身につけ、生活文化学科の定める卒業要件を修め、卒業論文の審査を受け、合格した者に学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

教養教育科目と専門教育科目に大別されます。前者は基礎科目群と教養科目群に別れており、後者は、学部共通科目と学科専門科目に区分され、それぞれのカテゴリーから履修します。学科専門科目は、多彩な分野横断の科目を、基礎と発展的内容に分けて学年進行に合わせて設置しています。また課題発見・解決のためのデータ収集や分析スキルを学ぶための科目も2年次から設置し、コミュニケーション能力の涵養については初年次からアクティブ・ラーニング科目を設置しています。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育内容与方法】

分野の広さも大きな魅力ですが、それぞれの分野からたとえばジェンダー研究を学ぶというようにテーマを絞りつつ多角的な視点を確保するという学び方もできます。また、少人数教育も特色と言えます。何についてどう研究するか教員と相談しながら自分で決めていくのです。

【学習成果の評価の仕方】

成績評価基準は、試験、レポート等の課題提出など何をどのくらいの割合で評価するかを科目ごとにあらかじめシラバスに明示しており、その方法で厳正に判定します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

生活文化学科は、人文・社会科学領域の確かな教養を身につけ、課題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力を高め、地域・社会でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。そのため、社会学・歴史学・ジェンダー研究・法学・経済学・社会心理学・表象論など多様な分野を取りそろえ、学際性豊かな教育環境を提供しています。また、フィールド調査・アンケート分析・ディベート・比較・文献講読等の教育方法を通して、歴史的視野と国際的視野を広げ、積極性・主体性を陶冶することを目標にしています。

【求める学生像】

生活文化学科は、幅広い関心を持ち、卒業後は公務員・教員・企業人等として活躍したいとの意欲をもつ学生を求めます。専門領域を自由に選べますので、高等学校では、文理を問わず、得意科目を深く勉強しておいてもいいですし、全分野に目配りをしながらバランス良く学ぶというスタイルであってもかまいません。日頃から、できるだけ国際問題や時事問題に関心を持つようにしてください。英語は、専門教育や大学院進学にとどまらず、社会人になったあとのコミュニケーション・ツールとしても重要ですので、高校で十分に学習しておくことが望まれます。

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および生活文化学を学ぶために必要な学力が身につけているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、個別学力検査として面接を実

施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに生活文化学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考(調査書、志望理由書)と第2次選考(データや資料の読み取り、ディスカッション)で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身につけているかどうか、生活文化学に対する興味関心进行评估します。第2次選考では資料の読解力、論理構成力、発想の柔軟性、コミュニケーション能力、学ぶ意欲进行评估します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績(日本語、総合科目、数学(コース1))、TOEFLのスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに生活文化学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験(英語、小論文)と、口述試験により、合否を判定します。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、生活文化学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、生活文化学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。